

## 第 90 回 東葛研修観察会

### 香澄公園の早春の自然

米澤理雄（船橋市）

場 所：香澄公園（習志野市）

参加者：20 名、担当指導員：米澤・守永

香澄公園の観察会は一昨年にも計画しました。下見会は良いお天気の中々な観察会でしたが、本番では雨、残念な中止でした。今回も雨天かと心配しましたが、風が少し冷たいが良い天気に恵まれました。

香澄公園は、1970 年代の第 2 埋め立てで造られた「緩衝緑地」です。住宅地と海岸側の工場群・湾岸道路・鉄道などの産業公害・交通公害の防止と生活環境の改善と谷津干潟の保全のために造られました。約 1200m もある細長い公園です（幅約 80m、約 9.5ha）。この公園には、習志野市名木百選のうち 4 種の名木が指定されています。ユリノキ・エノキ・ラクウショウ・シナサワグルミ です（シナサワグルミは千葉市側にあって遠いので、観察会の時間内では行けません。それでいつも見られていません。今回も同じになりました）。

今回の研修観察会は、エントランス広場で ご挨拶とコロナ対策の注意の後、2 班に分かれて、エントランス広場を出発しました。香澄公園ではメインテーマとして、「冬芽と木肌（樹皮）を観察しよう」です。樹皮の観察で、エントランス付近の樹木では、特徴のあるサルスベリ（全体が剥がれて冷たい）、トウカエデ（全体に縦向きの裂け目）、クスノキ（全体に縦向きの裂け目があるがコルク様であたたかさを感じる）を触ってみました。冬芽の観察では、手の届くような高さに枝があるソメイヨシノ（鱗芽鱗片型、過保護な重ね着）、トチノキ（ベトベトしています）が観察しやすい。ケヤキの観察では、樹皮が剥がれてジグソウパズル状になっています。落ちている樹片がどこから落ちたか？ や落ちかけている樹片の中に虫がいるようで（実際 小さいクモがいた）、他の虫も探そうとしています。時間がかかりそうなので、広場のど真ん中で、360 度、伸び伸びと枝を伸ばした枝ぶりと土の表面に根っこが露出し、かなり広い範囲の広がりを見せる根っこの様子を見て、枝の広がりとは根っこの広がりとは同じような広さになることを観察しました。アキニレの周辺では鳥の音がいっぱい聞かれます。アキニレの翼果を食べているようです。ユリノキは葉が落ちた枝に、花の残りが付いていて、かろうじてユリノキと分かる状態です。エノキは平滑で目立った特徴はありませんが、横向きの筋が残っています。ラクウショウは花しょうぶ園の淵に膝根があり、球形の球果があります。葉は互生です。香澄公園は多くの木があり、四季の花が見れます。また、それぞれの所で子どもと遊ぶことができるアトラクションがあります。無料の駐車場が 2 ヲ所、場内にはトイレが 3 ヲ所あり、安心して 観察しながら遊べます。みなさん、是非来てみてください。



アキニレの樹皮を観察 虫探しも



樹皮・新葉・葉痕等々を観察



ケヤキの樹皮 虫の観察